

事業評価シート

資料4-2

<事業内容>

No.	1	担当課名
担 当 課	食のまちづくり推進課	
名 称	館山市食のまちづくり拠点施設整備事業	
目 的	民間事業者のノウハウやアイデアを活用し、館山市稲地区に「食のまちづくり拠点施設」を整備し、この施設を中心に、官民連携により、下記の取組を展開していく。 ①体験メニューや貸農園などによる館山市の農業や食に関する情報発信 ②一般消費者や地域の飲食店等への鮮度の良い地域農産物の販売 ③館山産の農産物を使用した料理や加工品メニューの開発・提供 これらにより、館山市の農水産業を力強い産業へと押し上げるとともに、地域経済そのものを発展させ、新たな仕事の創出や関係人口の増加につなげていく。 ※交付金対象事業は、施設整備に係る施工費相当分のみ。	
事業概要	詳細事業名	・館山市産の農産物に対する理解（関心度）の向上
	食のまちづくり拠点施設を整備し、令和6年2月に開業した。当施設を拠点に地域の食の魅力を発信するとともに、消費者が直接触れて食の魅力を感じる体験イベントを実施し、地域の農産物への理解（関心度）を高めた。	
期 間	令和5年4月 ～ 令和5年12月	

<事業に関する経費>

計画事業費	357,782,000 円	執行（実績）額	357,779,817 円
		交付金充当額	178,889,488 円

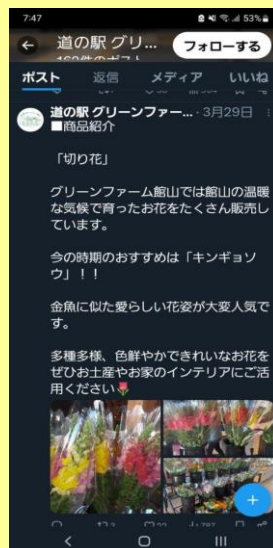
<総合戦略での位置づけ>

基本目標	“食”の豊かさで人をひきつける ～食の豊かさアップ～
目指す方向性（政策分野）	館山市の特性を活かした多様な「しごと」の創出、館山市への「ひと」の流れをつくる
講ずべき施策	「食のまちづくり」による農水産業の魅力向上

<本事業における重要業績評価指標（KPI）>

K P I		事業開始前 (R2年度) ※基準値	R4年度 (1年目)	R5年度 (2年目)	R6年度 (3年目)	R7年度 (4年目)	R8年度 (5年目)	合計
			目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
			達成率	達成率	達成率	達成率	達成率	達成率
1	食のまちづくり拠点施設の入込客数 【単位：万人】	0	0	4	30	35	40	109
				6				
				150.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2	地域における農産物等の販売額（地域の農産物直売所における販売額） 【単位：千円】	273.191	0	27,040	175,940	190,325	205,429	598,734
				107,917				107,917
				399.1%	0.0%	0.0%	0.0%	18.0%
3	食のまちづくりの推進を通じた農産物等を使用した加工品の新商品開発 【単位：商品】	0	0	5	10	10	10	35
				9				
				180.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
4	食のまちづくりの推進を通じた起業等による新規雇用者数 【単位：人】	0	0	0	10	15	20	45
				0				
				#DIV/0!	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

・施設内に農産物直売所を整備し、陳列される農産物の特徴や調理方法等をPOPで紹介したり、SNSで発信するなど、消費者の関心度や理解度の向上に取り組んだ。



・当施設の開業に合わせて、市内の地産地消に取り組む事業者と連携した共同プロモーションや、周辺道の駅と連携してのスタンプラリーを実施し、地域全体の食の魅力発信や経済効果につながった。



・施設内の農園で収穫体験や、キッチンスタジオで地元農産物を使った料理を作り試食提供、地元酪農家と共催でのふれあい体験など、体験価値の向上とリピーター確保につなげるとともに、体験を通じて農産物に対する理解（関心度）の向上につなげた。



・施設内にインフォメーションラックとデジタルサイネージを設置しての情報発信スペースを設け、周辺地域で実施される収穫体験等の情報を訪問者へ提供するなど、地域の食の体験機会を増やした。



<実績値等を踏まえた事業の評価>

- ・ 非常に有効であった

【理由・説明】

食のまちづくり拠点施設の開業に多くの関心が寄せられ、目標以上の入り込みがあり、館山市の食の魅力を多くの人に伝えることができた。特に体験イベントは好評で、食の魅力をダイレクトに伝えることができると同時に、多彩なイベントを行うことでリピート率向上にもつながった。この開業に合わせて市内の地産地消に取り組む事業者と連携しての共同プロモーションや、周辺道の駅と連携して実施したスタンプラリーなどでは、当施設を目的に訪れた観光客が地域を周遊する流れもでき、地域全体の経済活性化に繋がった。今後も当施設を拠点として地域経済を盛り上げることで、雇用の創出にも繋がると考える。

<実績値等を踏まえた今後の方針>

- ・ 事業の継続

【理由・説明】

「食のまちづくり」の推進に取り組む上で、地域の農産物に対する理解（関心度）の向上はその基礎となるものである。地域の農産物や生産者への理解度を向上させることで、販売力向上、地産地消推進、生産者のモチベーション向上、ひいては新規就農者の増加といった効果が期待できる。令和6年度は市と拠点施設とで連携して生産者取材を実施し、旬の農産物とその生産者に関する情報をタイムリーに発信することで地場産品への人々の関心をより一層高めていく。

<戦略の見直し等の必要性>

特になし

事業評価シート

資料4-2

<事業内容>

No.	2	担当課名
担 当 課	食のまちづくり推進課	
名 称	館山市食のまちづくり拠点施設整備事業	
目 的	民間事業者のノウハウやアイデアを活用し、館山市稲地区に「食のまちづくり拠点施設」を整備し、この施設を中心に、官民連携により、下記の取組を展開していく。 ①体験メニューや貸農園などによる館山市の農業や食に関する情報発信 ②日般消費者や地域の飲食店等への鮮度の良い地域農産物の販売 ③館山産の農産物を使用した料理や加工品メニューの開発・提供 これらにより、館山市の農水産業を力強い産業へと押し上げるとともに、地域経済そのものを発展させ、新たな仕事の創出や関係人口の増加につなげていく。 ※交付金対象事業は、施設整備に係る施工費相当分のみ。	
事業概要	詳細事業名 ・鮮度の良い農産物を提供できる地域内流通システムの構築	
	地域内流通システムに必要な設備を持った食のまちづくり拠点施設を整備し、令和6年2月に開業した。システムの構築に向けての事前調査も併せて実施した。	
期 間	令和5年4月 ～ 令和5年12月	

<事業に関する経費>

計画事業費	357,782,000 円	執行（実績）額	357,779,817 円
		交付金充当額	178,889,488 円

<総合戦略での位置づけ>

基本目標	“食”の豊かさで人をひきつける ～食の豊かさアップ～
目指す方向性（政策分野）	館山市の特性を活かした多様な「しごと」の創出、館山市への「ひと」の流れをつくる
講ずべき施策	「食のまちづくり」による農水産業の魅力向上

<本事業における重要業績評価指標（KPI）>

K P I		事業開始前 (R2年度) ※基準値	R4年度 (1年目)	R5年度 (2年目)	R6年度 (3年目)	R7年度 (4年目)	R8年度 (5年目)	合計
			目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
			達成率	達成率	達成率	達成率	達成率	達成率
1	食のまちづくり拠点施設の入込客数 【単位：万人】	0	0	4	30	35	40	109
				6				
				150.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2	地域における農産物等の販売額（地域の農産物直売所における販売額） 【単位：千円】	273.191	0	27,040	175,940	190,325	205,429	598,734
				107,917				107,917
				399.1%	0.0%	0.0%	0.0%	18.0%
3	食のまちづくりの推進を通じた農産物等を使用した加工品の新商品開発 【単位：商品】	0	0	5	10	10	10	35
				9				
				180.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
4	食のまちづくりの推進を通じた起業等による新規雇用者数 【単位：人】	0	0	0	10	15	20	45
				0				
				#DIV/0!	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

・地域内流通システムを構築する際に、拠点施設が主な集荷場所として活用できるように、農産物直売所を整備することに加え、施設内にバックヤードおよび冷蔵設備を整備した。



・地域内流通システム構築に向けての実証実験を行うために、市内飲食店にヒアリングを実施した。

<実績値等を踏まえた事業の評価>

- ・ 相当程度有効であった

【理由・説明】

令和5年度は、地域内流通システムの中心となる拠点施設の整備と開業、併せてシステム構築のための実証実験に向けての事前調査と、地域内流通に向けた準備の段階であり、まだ成果としては見えづらい状況である。しかしながら、今後地域内流通システムを構築するために必要不可欠の事業であったと言える。

<実績値等を踏まえた今後の方針>

- ・ 事業の継続

【理由・説明】

令和6年度は令和5年に実施した飲食店へのヒアリングをもとに地域内の流通システムの骨格を構築し、実証実験を行う。需給情報の収集発信や配送方法等、拠点施設の機能が十分に発揮できるよう仕組みづくりを行う。

<戦略の見直し等の必要性>

特になし

事業評価シート

資料4-2

<事業内容>

No.	3	担当課名
担当課	食のまちづくり推進課	
名 称	館山市食のまちづくり拠点施設整備事業	
目 的	民間事業者のノウハウやアイデアを活用し、館山市稲地区に「食のまちづくり拠点施設」を整備し、この施設を中心に、官民連携により、下記の取組を展開していく。 ①体験メニューや貸農園などによる館山市の農業や食に関する情報発信 ②日般消費者や地域の飲食店等への鮮度の良い地域農産物の販売 ③館山産の農産物を使用した料理や加工品メニューの開発・提供 これらにより、館山市の農水産業を力強い産業へと押し上げるとともに、地域経済そのものを発展させ、新たな仕事の創出や関係人口の増加につなげていく。 ※交付金対象事業は、施設整備に係る施工費相当分のみ。	
事業概要	詳細事業名 ・ 飲食・加工品メニューへの活用を促進	
	食のまちづくり拠点施設を整備し、その開業にあたり拠点施設内の飲食店や施設オリジナル商品として地域の農産物やジビエを活用したメニューや加工品が開発された。民間事業者が行う地元農水産物を活用した加工品開発やPRを支援した。 市内で新規就農や企業する方を支援するためチャレンジジョブ制度をつくり、募集を行った。	
期 間	令和5年4月 ～ 令和5年12月	

<事業に関する経費>

計画事業費	357,782,000 円	執行（実績）額	357,779,817 円
		交付金充当額	178,889,488 円

<総合戦略での位置づけ>

基本目標	“食”の豊かさで人をひきつける ～食の豊かさアップ～
目指す方向性（政策分野）	館山市の特性を活かした多様な「しごと」の創出、館山市への「ひと」の流れをつくる
講ずべき施策	「食のまちづくり」による農水産業の魅力向上

<本事業における重要業績評価指標（KPI）>

K P I		事業開始前 (R2年度) ※基準値	R4年度 (1年目)	R5年度 (2年目)	R6年度 (3年目)	R7年度 (4年目)	R8年度 (5年目)	合計
			目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
			達成率	達成率	達成率	達成率	達成率	達成率
1	食のまちづくり拠点施設の入込客数 【単位：万人】	0	0	4	30	35	40	109
				6				
				150.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2	地域における農産物等の販売額（地域の農産物直売所における販売額） 【単位：千円】	273.191	0	27,040	175,940	190,325	205,429	598,734
				107,917				107,917
				399.1%	0.0%	0.0%	0.0%	18.0%
3	食のまちづくりの推進を通じた農産物等を使用した加工品の新商品開発 【単位：商品】	0	0	5	10	10	10	35
				9				
				180.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
4	食のまちづくりの推進を通じた起業等による新規雇用者数 【単位：人】	0	0	0	10	15	20	45
				0				
				#DIV/0!	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

- ・軽食コーナーやレストランにて地元産農産物を活用したメニューが開発された。



地元の野菜を使ったメニュー

- ・地域の生産者や加工品事業者とタイアップし、地元産の農産物を利用した商品開発を行った。



- ・民間事業者が行う地元農水産物を活用した加工品開発やPRを支援した。



- ・軽食コーナーやレストランにて、館山産ジビエを活用したメニューが開発された。



館山ジビエバーガー



WILDBOARのポットパイ

- ・地元酪農家と連携し、ソフトクリームや乳製品を加工販売した。



牛乳



ジェラート

- ・市内で新規就農や企業する方を支援するためチャレンジショップ制度を実施し施設内に特設コーナーを設置するなど人材の育成を図った。R5年度は支援事業者の申し込みは無かったが、引き続き制度を実施していきたい。



市広報紙掲載記事

<実績値等を踏まえた事業の評価>

- ・非常に有効であった

【理由・説明】

拠点施設開業にあわせた加工品開発や、民間事業者が行う加工品開発の支援はKPIの成果に直結するもので、加工品新開発9件と目標以上の成果を出すことができた。これら加工品のPRを実施することで地域内での加工品開発の動きを活発化させ、経済全体の活性化につなげたい。
加えて、館山産ジビエを活用した料理メニューや地元酪農家による加工品の開発など、館山ならではの加工品が生み出され、地域の食の魅力アップにつながった。

<実績値等を踏まえた今後の方針>

- ・事業の継続

【理由・説明】

令和6年度は、これまでに開発された料理メニューや加工品のPR支援を行うことで事業拡大を支援し、新規雇用にも繋げたい。規格外農産物の活用や公募レシピの商品化など、昨年度検討段階だった事業についても実現に向けて取り組む。チャレンジショップ制度については、令和5年度は対象事業者の応募は無かったが、引き続き同制度を実施し、人材の育成事業に取り組むものとする。地域内流通システムと連携し、飲食店の需要に応じた農産物の確保提供の仕組みにより、地場産品を利用したメニュー開発を促進する。

<戦略の見直し等の必要性>

特になし